

# 造船協會雜纂附錄 時報

第4號 昭和21年10月刊行

## 目次

「特殊研究集録委員會」設置に就て	
秋季講演會講演申込狀況	
昭和21年度鋼製漁船建造計畫	
第1次小型客船建造計畫	
船渠料船底塗裝料の改訂	
九月の諸會合	
雜 錄	
新入會者氏名	「求人」欄新設に就て
編輯係より	

## 主要製品

ポンプ・冷凍機・送風機・濾過機  
壓縮機・ブローア・水車

株式會社

荏原製作所

本社 神奈川縣川崎市北加瀬五〇

事務所 東京都楚町區丸ノ内丸ビル八階 電話丸ノ内(23)221-2

大阪市北區朝日ビル内

出張所 福岡市中土居町四帝銀支店內

# タカサゴ

## 飛躍生産

### 放熱器

各種ラヂエーター  
ボイラー

### 磨帶鋼

普通鋼帶・特殊鋼帶  
帶鉄力・亜鉛鍍鋼帶

### ポンプ

工場・鑛山・家庭用  
各種揚水ポンプ

### 蝶番

各種鋸材・各種バネ  
自轉車リム

## 高研鐵工株式會社

本社

東京都芝區今入町(磯村ビル)

電話代案館六二八六

大阪出張所

大阪市北区神門町六一(共同ビル)

電話北(36)八〇五二

一般化學機械並  
高水壓ポンプ・プレス  
空氣壓縮機・遠心分離機

### 株式會社 名機製作所

東京都澁町區丸ノ内三菱仲三號 電話丸ノ内(23)6170・6580・6224  
大阪・名古屋・愛知縣大社・六亭

Vベルト界の寵兒

### 特許 タカロープ

ゴク式 長サ均一・屈曲自在 傳導能率 98 %

## 高砂ゴム工業株式會社

Vベルト部

本社 東京都目黒區上目黒二ノ一九四五 電話渋谷(46)1151-4  
營業所 東京都京橋區横町三ノ一 電話京橋 6547・6549

### 熱計測器

熱電氣式高溫計  
溫度自動調節計

株式會社 東京都豊島區高松二ノ四一  
千野製作所 電話落合長崎 2969

### 營業品目

化學機械・鑛山機械・鐵骨・鐵柱・橋梁・ボイラー  
水壓鐵管・農機具・水壓ポンプ・プレス

## 三信鐵工株式會社

東京都日本橋區本町二丁目三番地  
電話日本橋(24)2573・3592・4029・5586

## 高壓瓦斯容器ノ整備

1. 燒損容器・拂下容器ノ整備(證明書下附申請手續)
1. 酸素・メタン・炭酸・鹽素・アンモニア其他高壓瓦斯容器用バルブ
1. 高壓瓦斯容器整備多量ノ場合ハ迅速出張作業ノ御相談ニ應ズ

## 戸塚高壓瓦斯容器株式會社

東京都足立區五反野北町二千番地  
電話足立2391・3875(省新綾瀬下車)

本誌上への廣告は

一手取扱

共榮通信社

假事務所 東京都品川區西品川四ノ九三二

### 特殊研究集録委員会設置に就て

戦前及び戦時中海陸軍其他官廳、研究所、會社、團體等で種々研究考案せられたもの又は實施された工事作業等で、當時機密扱其他の關係上公表されてゐないものが相當にあり、而も其の内容は今後の造船造機技術上の參考となるものが多々あることと考へられます。そしてこれをこの儘放置しておいて埋もれさせてしまふことは如何にも遺憾でありますので、これ等の仕事に従事された方に確かな記憶のある間に執筆を願つて集録して置くことは極めて有意義なことであり、又この事業を實施する團體としては造船協會が最も適當であるといふところから、本年7月24日開催の臨時評議員會に於て本協會内に一つの委員會を設置することに決議せられたのであります。そこで本決議に従つて早速準備委員を依頼して事業の實施方法等を研究して貰ふこととし、別項記載のやうにその第1回の會合を去る9月30日に開催しました。その結果この委員會を「特殊研究集録委員會」と稱することとし、先づ第一着手として各會社、研究所、團體等からそこで實施された未公表の研究考案若くは作業等の項目（差當り仕事の名稱のみで、内容の記事は追つて後程御執筆願ふこととします）を通知して頂き、これを基礎として委員會の仕事を進進して行くことに申合せたのであります。集録の形式としては色々考へられますけれども、論文として纏まるものは春秋2季の講演會で御發表を願ひ、その他のものは取敢へず雜纂に掲載したいと思ひます。就きましては會員諸君に於かれましても本委員會設置の主旨を了承せられ、これに集録するを適當と認めらるゝ研究考案、作業等がありましたら何卒造船協會事務所宛御通知下さるやう御願ひします。

### 秋季講演會講演申込状況

原稿締切迄に申込まれた講演申込は次の通りで合計17論文、本協會始まつて以來の多數である。そのため講演日取も別項記載の如く11月9、10の兩日に決められたやうな始末で、今か

らその盛會が偲ばれる。

昭和21年度秋季講演會講演申込調

- (1) 船舶自由横揺に於ける減衰係數の概算法  
正 員 工 學 博 士 渡邊 惠弘君
- (2) 平面骨組梁振り剛性  
正 員 工 學 博 士 寺澤 一雄君  
准 員 工 學 士 藤本 佳夫君
- (3) 尖點のある孔を有する板の應力に就て  
准 員 工 學 士 越智 和夫君
- (4) 木鐵交造船の温度  
正 員 工 學 士 加藤 守君
- (5) 回轉せる任意断面梁の撓み振動數の一近似計算法  
准 員 工 學 士 金澤 武君
- (6) 圓形彈性板の強制振動に就て  
准 員 工 學 士 金澤 武君
- (7) 造波抵抗の成分に就て  
准 員 工 學 士 乾 崇夫君
- (8) 周期運動をする没水體に就て  
准 員 工 學 士 山本 善之君
- (9) 木材接手の一實験  
正 員 工 學 士 市川 慎平君
- (10) 進水に關する研究  
正 員 工 學 士 濱田 鉅君
- (11) 造波抵抗理論の應用例二題  
正 員 工 學 士 木下 昌雄君  
准 員 工 學 士 阿部 敦君  
准 員 工 學 士 岡田 正次郎君
- (12) 漁船の水槽試験成績  
正 員 工 學 士 谷口 中君
- (13) 釘の一設計法(續き)  
正 員 工 學 士 原田 正道君  
准 員 工 學 士 刈田 善政君
- (14) 航路安定性に就て  
准 員 工 學 士 元良 誠三君
- (15) 船型の數式的表示  
准 員 工 學 士 渡邊 恭二君
- (16) 木材の平面嵌接  
正 員 工 學 士 原田 正道君  
准 員 工 學 士 米田 博君
- (17) 精圓柱の旋回運動について  
正 員 工 學 士 重川 涉君

### 昭和 21 年度鋼製漁船建造計畫

鋼製漁船建造は本年度に入つて既に 2 回許可されてゐる。その船種、船型、隻數等は次の通りである。

#### 第 1 回分 (7 月迄に建造済予定のもの)

船種	型	隻	總噸	隻數計	總噸計
運 搬	1,000	1	1,000	6	3,830
	750	3	2,250		
	500	1	500		
	80	1	80		
捕 鯨	550	1	550	19	6,530
	370	9	3,330		
	300	7	2,100		
	275	2	550		
トロー ラー	350	3	1,050	33	9,510
	320	10	3,200		
	270	13	3,510		
	250	7	1,750		
底 曳	98	64	6,272	322	24,082
	75	181	13,575		
	55	77	4,235		
鰔 鮪	135	29	3,915	36	4,580
	95	7	665		
合 計				416	48,532

#### 第 2 回分 (9 月から明年 3 月迄に建造済予定のもの)

船種	型	隻	總噸	隻數計	總噸計
運 搬	750	3	2,250	4	2,345
	95	1	95		
捕 鯨	300	7	2,100	7	2,100
	320	1	320		
トロー ラー	270	7	1,890	8	2,210
	98	10	980		
底 曳	75	18	1,350	68	4,160
	55	30	1,650		
	18	10	180		
鰔 鮪	135	55	7,425	124	13,975
	120	3	360		
	95	62	5,890		
	75	4	300		
合 計				211	24,790

尙第 2 回分に於ては上表の外に木製漁船 17

隻、2,040 總噸の新造が許可になつてゐる。これ等は何れも日本政府が必要なる漁船隊として要請した 35,244 隻の一部をなすものである。

### 第 1 次小型客船建造計畫

海運總局では豫て 77-隻、66,300 總噸の新造客船建造計畫を作製してマツカーサー司令部に許可申請中であつたが、その第一分として小型客船 28 隻、33,600 總噸の建造許可があつた。建造所、船主、總噸、航路、船客數等は次表の通りである。

建造所	船主	總噸	航 路	船客數
藤永田	大阪商船	500	博多—直岐—對馬	300
播磨	同上	2,000	別路—室蘭—新潟	170
同上	東海汽船	500	東京—八丈島	150
日立因島	大阪商船	1,000	鹿兒島—十島	300
川崎重工	川崎汽船	1,000	大阪—由良	550
三菱廣島	日本郵船	1,000	大阪—門司	600
同上	關西汽船	1,000	大阪—宇和島	300
同上	同上	1,000	宇和島—別府	500
三菱神戸	同上	1,000	大阪—小松島	500
同上	同上	1,000	大阪—由良	600
同上	同上	1,000	神戸—洲本	600
同上	東海汽船	300	東京—龜山—三崎	150
三菱長崎	日本郵船	2,000	小樽—京濱	200
同上	同上	2,000	小樽—新潟	200
同上	同上	2,000	小樽—京濱	200
同上	同上	2,000	大阪—京濱	200
同上	關西汽船	2,000	大阪—別府	750
同上	神奈川海運	1,000	鹿兒島—十島	300
三菱横濱	南洋海運	700	門司—堺	500
同上	同上	1,000	大阪—門司	500
同上	東亞海運	500	東京—三宅島	100
三井玉野	東洋海運	300	宮古—鹽釜	100
同上	關西汽船	1,000	大阪—高知	500
同上	西海汽船	2,000	小樽—京濱	200
同上	三井船舶	2,000	別路—室蘭—新潟	200
同上	關西汽船	1,500	大阪—高松—多度津	600
名古屋	日本海汽船	2,000	小樽—新潟	400
佐野安	關西汽船	300	大阪—今治	300
合 計	28 隻	33,600		

船渠料船底塗装料の改訂

造船聯合會から逕達大臣宛船渠料及び船底塗装料の改訂方認可申請中のところ今般次の如く値上げが許可せられた。

1. 船渠料

總 噸	48時間以内の入渠	48時間以後の滞渠料1日當り
400以下	1.500圓	300圓
400~700	2.000	400
700~1.000	2.500	500
1.000以上	1 總噸當り 2.50圓	1 總噸當り 0.50圓

2. 船底塗装料

總 噸	船底掃除の上1回料金	同塗装2回目以後毎回料金	水線掃除の上1回料金	同2回目以後毎回料金
400以下	690圓	240圓	510圓	260圓
400~700	860	340	610 (同上)	360
700~1.000	1.100	440	800 (同上)	460
1.000~1.000	1.520	630	680 (同上)	320
1.200~1.400	1.730	720	770	380
1.400~1.600	1.930	830	870	430
1.600~1.800	2.130	920	970	480
1.800~2.000	2.340	1.020	1.060	530
2.000~2.500	2.900	1.200	1.300	600
2.500~3.000	3.310	1.400	1.590	700
3.000以上	1.18 1 總噸當り圓	0.47 1 總噸當り圓	0.52 1 總噸當り圓	0.23 1 總噸當り圓

備考 本表の料金は造船事業法による造船事業の許可會社につき適用する。

九月の諸會合

4日(水)試験水槽委員會第26回會合

時及場所 自午後2時至5時 船舶工學科會議室に於て

出席者 青山委員長, 木下, 谷口, 土田各幹事, 鬼頭, 志波, 菅, 重川, 加藤, 栗田, 田宮, 乾, 笹島各委員

議 事

- 一. 本委員會の性格檢討の件
- 二. 客員依頼の件

三. 今後の研究議題の件

四. 下記研究項目に關する小委員會設置に關する件

- 1. 摩擦係數及び動粘性係數等水槽試験關係諸係數の統一
- 2. 速度單位(節の大小)其他水槽試験關係諸單位の統一
- 3. 水槽關係術語の統一

五. 小委員會委員を次の通り指定した。

上野敏三君 菅 四郎君 木下昌雄君  
 笹島秀雄君 谷口 中君 田宮 眞君  
 土田 陽君

10日(火)試験水槽委員會小委員會第1回會合

時及場所 午後2時 至5時30分

出席者 菅, 木下, 土田各委員

議 事

研究項目の整理及びその分擔の件。各委員から提出せられた研究項目及びその分擔を次のやうに決めた。

分 類	分 擔
船の形狀	田宮
摩擦抵抗	木下
剩餘抵抗(空氣抵抗を含む)	木下
海洋氣象	木下
推進器の形狀	土田
推進(形狀以外のものトライアルを含む)	谷口
旋 回	笹島
動 搖	上野

23日(月)編輯委員會

時及場所 自午後2時至4時, 船舶工學科會議室に於て

出席者 吉澤編輯主任, 石田, 木原, 植田各委員, 出淵事務長

議 事

一 報告事項

- 1. 雜誌及び會報印刷狀況並に印刷促進具體案の件
- 2. 雜誌第268號内容變更の件
- 3. 時報第1號發刊の件
- 4. 時報第2, 3號目次の件
- 5. 秋季諸會會議申請状況の件

- 6. 雑誌掲載用未処理原稿調の件
- 7. 会員輿論調査の結果に関する件

二 協議事項

- 1. 雑誌第 269 号掲載記事選定の件
- 2. 委員依属及び解属の件

三 編輯主任よりの希望事項

今後記事選擇に當つては漁船、木船に関するものにも力を注ぐやう希望陳述があつた。

25日(水)定例評議員會

時及場所 自午後 2 時至 6 時 40 分 船舶工學科學生圖書室に於て

出席者 井口會長、山縣主事、加藤主計、吉謙編輯主任、常松理事、瀧田、朝永各監事、橋原、岩井、瀧山、横山、江崎、松本、赤崎、南波、太田、出淵各評議員、山本前會長

議 事

一 昭和 21 年 8 月 28 日定例理事會決議事項中追認の件

- 1. 入退會者承認の件
- 2. 車馬賃贈呈の件。役員會委員會座談會に出席の諸君に供食不自由の期間に限り適宜車馬賃を贈呈することとし、本年 8 月の會合から實施することにつき追認せられた。
- 3. 工業標準調査會委員會專門委員推薦の件。正員葛敬三郎君を推薦することとし、既に同君の承諾を得て推薦の手續を済めた。
- 4. 事務所移轉の件。丸の内日本工業俱樂部内の日本工學會事務所を借用方交渉を進めることに決せられた。移轉の時期は未定である。

二 8 月定例理事會以後の入退會者承認の件 區議員申込 17 件、個人申込 9 件、退會申込 2 件につき審議の上査定を行つた。

三 研究委員會委員選出の件。7 月 24 日の臨時評議員會の決議によつて新設せられることになつた電氣熔接、木船、漁船、工作法各研究委員會の委員につき協議した。

四 主務官廳(文部大臣)へ届出づべき第 50 期年度收支豫算編成の件。

五 會報第 73 号及び第 74 号掲載論文中授賞論文選定の件

7 月 24 日の臨時評議員會で決定せられた授賞候補論文につき各審査委員から審査の結果につき報告があつた。

六 次回臨時評議員會日取の件。7 月 24 日の臨時評議員會に於て来る 11 月 10 日に本年度通常總會及び講演會を開催することに決議せられたが、講演申込が非常に多いので 11 月 9、10 兩日開催のこととし、これに対する諸般の準備上評議員會の承認を得べき事項があるので、10 月 9 日(第二水曜日)午後 2 時から臨時評議員會を開催することに決められた。

七 編輯委員依属及解属の件。解任を申出られた研野作一君の解属を承認し、新たに数名の委員を依属することに決せられた

報 告

一 戦時中未公表の研究考案集録に関する準備委員會設置の件。7 月 24 日の臨時評議員會の決議に基づき 8 月 28 日の定例理事會で委員を常松四郎君、瀧田啓二君、片山有樞君、福光外次郎君、山縣昌夫君、渡邊賢介君、出淵巽君に夫々委屬した旨報告があつた。尙その第 1 回會合は 9 月 30 日に開催せられる。

二 會誌印刷促進具體策の件。8 月 28 日の定例理事會の承認を得て出版協同株式會社の株主となり、同社の特約及直營工場を利用することとしたが、本件に就て評議員會の追認を求めた。

三 預金封鎖に関する件。金融緊急措置令改正規則による公益團體第一封鎖預金追加指定を大藏省に申請中なる旨報告があつた。

四 日本工學會理事評議員會決議事項の件。9 月 5 日開催の日本工學會理事評議員會に於て、昭和 23 年春第 5 回工學會大會を開催する豫定であるから各會員學會でもその心組であつて貰ひたい旨通知があ

つた。

30日(月)特殊研究集録準備委員会  
 時及場所 自午後2時至4時30分 船舶工  
 學科學學生圖書室に於て  
 出席者 井口會長、常松、渡邊、山縣、出  
 淵各委員

議 事

- 一 會長から本委員設置並に委員依屬に關し  
 挨拶があつた。
- 二 山縣委員から本委員會を設置するに至つ  
 た経緯に就て説明があつた。
- 三 本委員會の名稱を「特殊研究集録委員會」  
 とすることに申合せた。
- 四 先づ第一着手として集録すべき特殊研究  
 考案項目を集めることとし、會長名を以  
 て各研究所、會社團體等宛照會すること  
 尙最近発行の時報にも委員會の主旨等を  
 掲載すること。
- 五 所要經費の見積及出途に關すること。
- 六 準備委員會は本日の會合を以て打切り、  
 今後は早速委員會を設置し、第四項記載  
 の會長よりの照會に對する回答あり次第  
 仕事を進める手配をなし置くこと。
- 七 委員は現在の準備委員會委員の他に數名  
 依屬の手配をなすこと。
- 八 集録すべきものの中、講演會に於て發表  
 するを適當と思はれるものは講演、その  
 他は一應雜纂に掲載することとし、全部  
 を取纏めて出版することは後日研究する  
 こと。

雜 録

新入會者氏名(9月中に承認された分)

團 員 阪神内燃機工業株式會社  
 代表者 取締役社長 小曾根眞造  
 同 九州造船株式會社外浦工場  
 代表者 取締役所長 中西健太郎  
 同 有限會社女川雄勝造船所  
 代表者 取締役社長 福田 壽助  
 同 山口縣遠洋漁業保險組合  
 代表者 組合長理事 大島 春三  
 同 株式會社白尾造船所

代表者 取締役社長 白尾 庄吉  
 石巻造船株式會社  
 代表者 取締 役 松谷悦右衛門  
 同 三勝商店漁業部  
 代表者 三代 義勝  
 同 北越造船有限會社  
 代表者 代表取締役 森山 治助  
 尾鷲造船株式會社  
 代表者 取締役社長 福井外二郎  
 同 山形造船株式會社  
 代表者 坂井 隆  
 株式會社高橋造船鐵工所  
 代表者 代表取締役 高橋 才治  
 同 有限會社磯濱造船所  
 代表者 取締役社長 皆川 貞雄  
 同 室蘭船舶修繕株式會社  
 代表者 取締役社長 瀬川 祐二  
 同 合資會社品川造船鐵工所  
 代表者 久住 岩吉  
 同 東小樽造船有限會社  
 代表者 代表取締役 熊谷岩次郎  
 同 山口造船所  
 代表者 山口 仟  
 正 員 吉田 益三 正 員 濱崎 利八  
 正 員 川崎勇次郎 正 員 富山 修  
 准 員 藤井 澄二 學生員 土田 達夫  
 學生員 多比良 稔 學生員 波多野修次  
 學生員 菅原 明男 學生員 原田 信男

「求人」欄新設に就て

9月23日開催の編輯委員會で雜纂又は時報  
 に「求人」欄を設けることに決りました。造船  
 造船方面の技術者を求めらるゝ方は希望條件を  
 附して御通知下さればこれを掲げて廣く會員諸  
 君にお知らせ致します。採用先は匿名とし、例  
 へば「静岡縣下某造船所」と云つたやうな書方  
 に致したいと思ひます。どうか御利用下さい無  
 論無料です。

編輯係より

後で編輯連絡員を通じて各地の會員諸君から  
 雜纂記事に對する希望を御通知願ひその結果を

取返して時報第2號に掲載しましたので既に御読み下さつたことと思ひますが、これによりますと設計、工作法、艤裝その他現場向きの記事を多く載せるやうにといふ聲が高いやうであります。會員の大半の方が現場に居られます關係上これは當然の御希望であり、編輯係としても以前から氣付いておつた事でありまして、記事の選擇にも相當の注意を拂つておつたのであります。然し實際は講演にしろ寄稿にしろ理論的のものが大部分でした。然しこれには理由があるのでありまして、第一に一般會員には非常に興味深好参考資料となることであるにも拘らず現場の経験の深い方ですとこんな事位は當り前のことで特に講演や寄稿をする程のことではないといふ考へから書かれないことが多いと思ひます。又一つには現場におられる方は理論的研究に携はられる方に比べて仕事の關係上机に向はれることが少いので筆を執ることがつひ億劫になるといふことも若干關係するのではないでせうか。従つてこちらから出掛けて種々のお話を伺ひ、こちらで記事を纏めるやうにするのが最良の策と考へます。先達つて開催しました船の電気溶接に関する座談會の如きはこの一例でありまして、これは雑誌第268號に載せますが最初の試みで而も可成りの成功であつたと思つてゐます。尙現場方面の記事として今後掲載されるものを協會の事業方面から一括して見ますと次の様な諸計畫がありますので今後は漸次御希望に副つて行くことが出来ると思つてお

ます。

- (1) 編輯連絡員からの通信
- (2) 座談會記事
- (3) 近く新設せられる管の次の各研究委員會の報告
  - (イ) 工作法に関する研究委員會
  - (ロ) 木船に関する研究委員會
  - (ハ) 漁船に関する研究委員會
  - (ニ) 電気溶接に関する研究委員會

造船協會も明年4月で創立50年を迎えるのでありますが、その間發行せられた會報は年報及び未發行の分をも合せて82冊、雑誌は268冊ありますが、その中年報會報のみに就て見ますと収録せられた論文總数は625篇で、その中設計、工作、艤裝等大體難しい理論を離れた、實際の船又は船用機關を對照とした論文は116篇あります。尤もこの數字は調査する人の考へで若干相異しませうけれども大體全論文の2割足らずよいふことになつてゐます。そしてこれを今少しく詳細に調べますと年によつて可成りの相異があり、その時代の造船業界の狀況に左右せられてゐる點も窺へるやうであります。この數年は特に理論方面の論文が斷然多いやうです。實地に関する記事を集めることに就きましては編輯擔當者としましても充分の努力は致しますが、會員諸君に於かれましても成るべく多數の現場向の記事を寄せられるやう切望します。

昭和21年 月 20日 印刷

昭和21年 月 25日 發行

編輯兼  
發行 人 出 淵 巽  
東京 都 世 田 谷 區 代 田 2 丁 目 78 番 地  
印 刷 所 大 同 印 刷 株 式 會 社  
東京 都 神 田 區 錦 町 3 丁 目 1 番 地  
發 行 所 東 京 帝 國 大 學 第 一 工 學 部 船 舶 工 學 科 内  
造 船 協 會

(發行代行所 日本出版協同株式會社)

電機修理  
電氣工事請負  
絶縁材料製造

東京・京橋・銀座七ノ四  
**菅原電氣株式會社**

電話銀座(57)905(3)・914(3)  
工場 東京・川崎・松本  
電機修理専門 蒲田工場

—〔營業品目〕—

鐵山機械・製鐵機械・化學機械  
横山水管式汽罐・各種製罐工事  
各種鑄鋼・鍛鋼製品

**横山工業製式會社**

東京都日本橋區江戸橋二・加賀ビル

トシボ印石綿製品  
電解用石綿布  
一般石綿紡績製品  
石棉制動帶摩擦板  
アスベストジョイントシート  
保溫工事設計施工

日本アスベスト  
株式會社

本社 東京都京橋區銀座西六ノ三  
分室 東京都杉並區荻窪二ノ二三六  
電話 荻窪 二九五七  
支店 大阪市鶴島區下刺島五ノ一八  
電話 此花 二八三三・九・一八七  
出張所 名古屋・別

米第八軍用品指定工場  
株式會社 **明電舎** 東京大崎

MEIDENSHA Co. LTD

—製品—

電動機・發電機・變壓器・配電盤・開閉制御  
機器・電氣ホキスト・電氣計器・其他電氣機器

電話大崎(49) 長3150 3161(4)  
3151(9) 0171(5)

專賣特許實用新案  
**超遠心噴霧乾燥裝置**

特長 洗狀物粉化・洗狀物濃縮

主要製品

超遠心液體清淨機・遠心油分離機  
超遠心牛乳分離機・超遠心酵母分離機  
壓力油濾過機・鐵道車輛部分品製作

株式會社 **大行社化機製作所** 東京・大森區大森9ノ4822  
電話大森(06) 1225・2215  
2989・3306

.....〔月島機械〕.....

化學工業用機械裝置

—製作品目—

製鹽用機械裝置・硫安用機械裝置  
酒精用機械裝置・工業藥品機械裝置  
人絹用機械裝置

**月島機械株式會社**

東京都京橋區月島通り五丁目九番地  
電話京橋(56) 代表8301-6

**N.K. タンマン電氣爐** 新式改良型

最高溫度 2300°C 常用溫度 2000°C

タンゲステン・モリブデン白金其ノ他稀有

金屬熔解 分析研究用

溫度上昇敏速 2000°C 迄上昇ニ達スル時間 30分

〔操作簡單・故障及ビ危険ナシ〕

**日本化工器製作所**

東京都澁谷區  
代々木西原町九七五

**ナガセの内燃機關** (無水式燒玉機關)

營業科目

發動機部 漁船用七五・二五馬力  
燒玉機關專門製作

鑄鐵部 各種鑄物部品

鋼鑄部 鐵道車輛用鑄鋼品

株式會社  
**永瀨鑄物工場**

川口市青木町4の100  
電話川口 2592・2757・2900・3403番

# 製 圖

には

## 三菱製圖用鉛筆

を

我が社六十年の歴史と多年の研究により獨りの科學的  
製造工程を経て完成した理想的の製圖用鉛筆であります。

No. 9600 三菱製圖用鉛筆一本.....50 セン

# CRAFT

印

## バルブ・コック

製造

開始

製鹽硫安其他各種化學裝置用

最大口径 1500 耗 設計配管工事 引 受

### 石田弁工業株式會社

東京都芝區白金志田町  
電話三田 45)3448 夜間3189  
振替東京一五七四一五番

# 眞 空 管 及 電 球 製 作 用 樞

# 要 電 機

## 東 京

## 變 壓 器 株 式 會 社

○インダクションコイル ○ボムバーダー ○テスラコイル ○スポットウエルダー

東京都 蒲田區

本蒲田一ノ二〇

## 煖房用バルブ・トラップ一式

減壓弁・溫度調節弁・安全弁・伸縮接手

## 造 船 用 バ ル ブ 一 式

株式會社 フ シ マ ン 製 作 所

本 社 東京都 品川區 大井 伊藤町 五六八一  
電話大森 (66) 5249-5084-8624-9433

森ヶ崎工場・矢幅工場・石鳥谷工場  
名古屋出張所 名古屋市昭和區瑞穂二野町三ノ二

# ロ ー タ リ ー ポ ン プ

(各 種 油 用)

特許タツノ式ガソリン計量器

特許タツノ式各種油地下安全貯藏裝置

各種ポンプ類・各種バルブ・コック類

株式會社 東 京 龍 野 製 作 所

本 社 東京都芝區芝浦町二丁目  
支 店 名 古 屋 大 阪

本誌上への廣告は 一手取扱 共榮通信社へ 假事務所 東京都品川區西品川四ノ九三二